

2021年3月期 第1四半期決算 連結業績概要

2020年8月7日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
佐瀬 克也

決算サマリー

2021年3月期第1四半期 業績概要

- 売上高605億円。5月時点の予想とほぼ同水準。
- 営業利益79億円。固定費抑制や為替影響、操業度効果などにより、5月時点の予想を上回った。
- 新型コロナウイルス感染症の影響でフィリピン、マレーシアの生産子会社の稼働が制限されたことにより、売上高は70億円減少。現在は、全ての生産拠点が通常稼働中。

2021年3月期 業績予想

- 売上高2,650億円(前期比6%減)、営業利益270億円(同27%減)を計画。

2021年3月期 第1四半期 業績概要

売上高は605億円。

5月時点の予想とほぼ同じ水準。

営業利益は79億円。

予想していた30億円を大きく上回った。

主な要因は、固定費の減少、為替影響、棚卸資産を積み上げたことによる操業度効果など。

新型コロナウイルス感染症の影響により、フィリピンとマレーシアの生産子会社で3月から5月にかけて稼働が制限された。

これにより、売上高は70億円減少したと推定。

現在は通常通り稼働しており、第2四半期以降、売上への影響は発生しない見込み。

2021年3月期 業績予想

売上高は前期比6%減の2,650億円、営業利益は同27%減の270億円を計画。

新型コロナウイルス感染症の影響

販売

顧客企業の生産動向、各機器の最終需要などを注視。

調達

一部サプライヤからの調達に支障はあるが、商流変更や在庫活用などで対応。

物流

航空便減便に伴い、物流リードタイムの長期化、物流費の上昇が発生。代替便や代替ルートによる輸送で対応。

生産

国内外全ての生産拠点が通常稼働。

国名	会社名	主な生産品目	稼働状況	
			5月12日時点	8月7日時点
フィリピン	TAIYO YUDEN (PHILIPPINES)	インダクタ	稼働中 (制約あり)	通常稼働中 (6月～)
マレーシア	TAIYO YUDEN (SARAWAK)	積層セラミック コンデンサ	稼働中 (制約あり)	通常稼働中 (5月中旬～)
日本、韓国、 中国など	上記以外	—	通常稼働中	通常稼働中

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

3

新型コロナウイルス感染症の影響について、販売面では、顧客の生産動向や主要機器の最終需要などの情報収集に努め、お客様からの要望にタイムリーに対応できるよう準備している。

調達活動には、大きな問題は発生していない。調達に支障が発生している部材も一部あるが、商流変更や在庫活用などで対応している。

物流については、航空便の減便のため、物流リードタイムの長期化や物流費の上昇が一部で発生。代替便や代替ルートの利用を進めるなど、影響を最小化できるよう対策を講じている。

生産においては、前回の決算発表時点では稼働に制約があったフィリピンとマレーシアの子会社が通常稼働に戻り、国内外全ての工場が通常通り生産活動を続けている。

連結業績概要(前四半期比)

百万円	2020年3月期 第4四半期		2021年3月期 第1四半期		増減	
売上高	68,233	100.0%	60,493	100.0%	△7,740	△11.3%
営業利益	7,431	10.9%	7,923	13.1%	492	6.6%
経常利益	6,835	10.0%	7,371	12.2%	535	7.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	△1,975	—	4,541	7.5%	6,517	—
対米ドル期中平均レート	109.54円		107.61円		1.93円円高	
為替変動による影響額	売上高△9億円、営業利益△1億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,295		2,988		△306	△9.3%
設備投資額	14,687		17,886		3,198	21.8%
減価償却費	7,389		6,599		△789	△10.7%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

4

2021年3月期第1四半期の業績は

売上高605億円、営業利益79億円、経常利益74億円。

特別損失として、新型コロナウイルス感染症関連損失を12億円計上。

非稼働分の労務費や減価償却費などの固定費、一過性費用などが含まれる。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は45億円。

期中平均の為替レートは1米ドル107.61円、第4四半期に対して1.93円円高。

これによる影響額は、売上高に対してマイナス9億円、

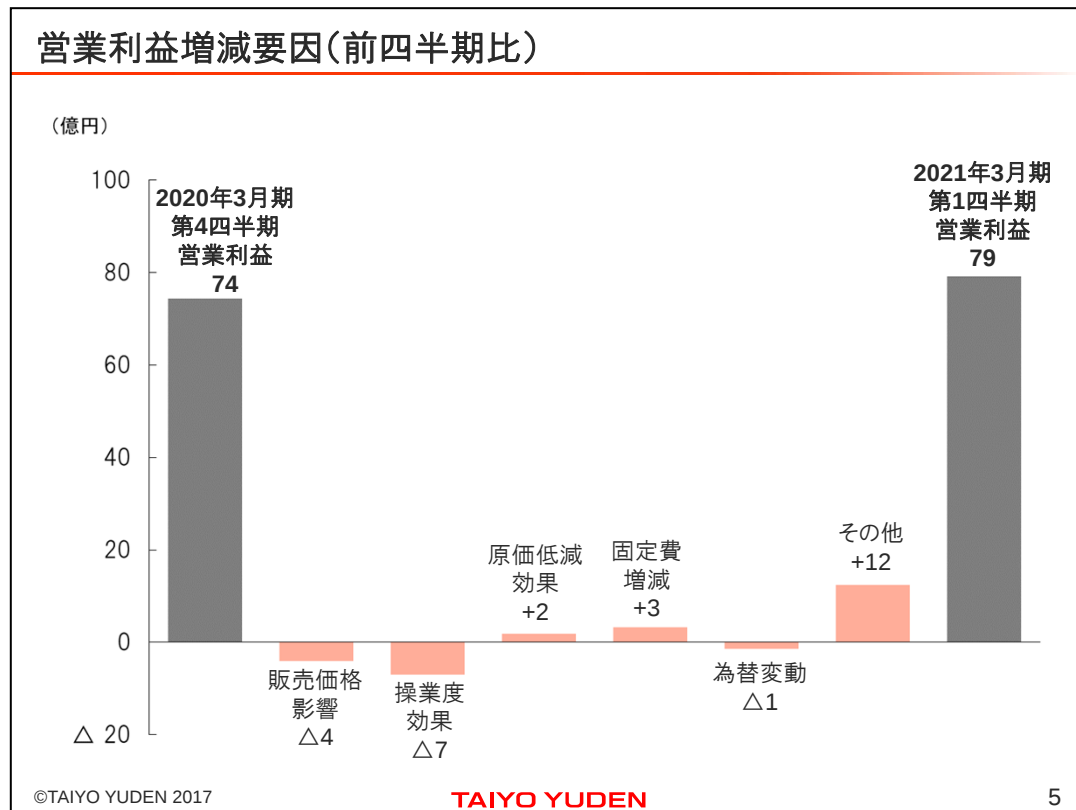
営業利益に対してマイナス1億円。

研究開発費は、前四半期比3億円減の30億円。

設備投資額は、同32億円増の179億円。

コンデンサを生産する子会社の新潟太陽誘電で新たな工場棟が完成し、その費用が計上された。

減価償却費は、同8億円減の66億円。



前四半期比での営業利益の減益要因として、販売価格の影響がマイナス4億円。

操業度効果は、販売数量の減少によりマイナス7億円。

操業度効果とは、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減など。

6月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた実態ベースで3月末より62億円増加。

第2四半期以降の需要拡大に必要な在庫を確保するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大による供給リスクに備えるため、棚卸資産を積み上げた。

このほか、円高による為替影響1億円が減益要因。

増益要因は、原価低減効果2億円、固定費の減少3億円、その他12億円。

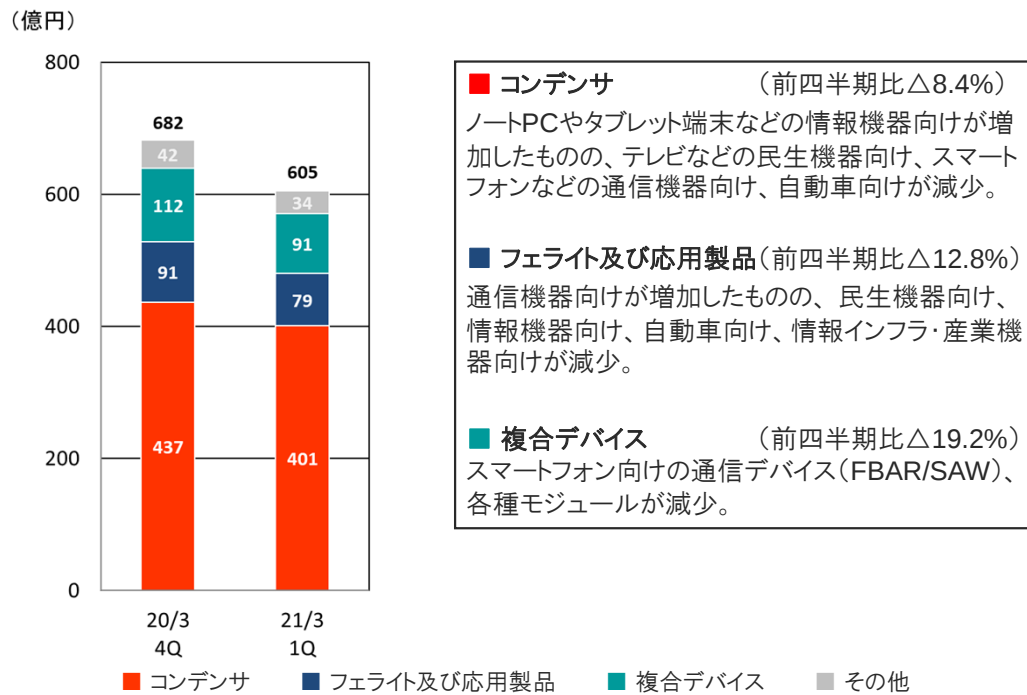
その他とは、先ほどご説明した新型コロナウイルス感染症の関連費用を特別損失として計上したもの。

その結果、営業利益は第4四半期から5億円増加し、79億円。

製品別売上高(前四半期比)

百万円	2020年3月期 第4四半期		2021年3月期 第1四半期		増減	
コンデンサ	43,738	64.1%	40,075	66.2%	△3,663	△8.4%
フェライト及び応用製品	9,090	13.3%	7,928	13.1%	△1,161	△12.8%
複合デバイス	11,226	16.5%	9,075	15.0%	△2,150	△19.2%
その他	4,178	6.1%	3,413	5.6%	△764	△18.3%
合計	68,233	100.0%	60,493	100.0%	△7,740	△11.3%

製品別売上高(前四半期比)



TAIYO YUDEN

7

コンデンサの売上高は401億円。

ノートPCやタブレット端末など情報機器向けの売上が増加したが、テレビなどの民生機器向けやスマートフォンなどの通信機器向け、自動車向けが減少したため、前四半期比8%減。

フェライト及び応用製品の売上高は、前四半期比13%減の79億円。

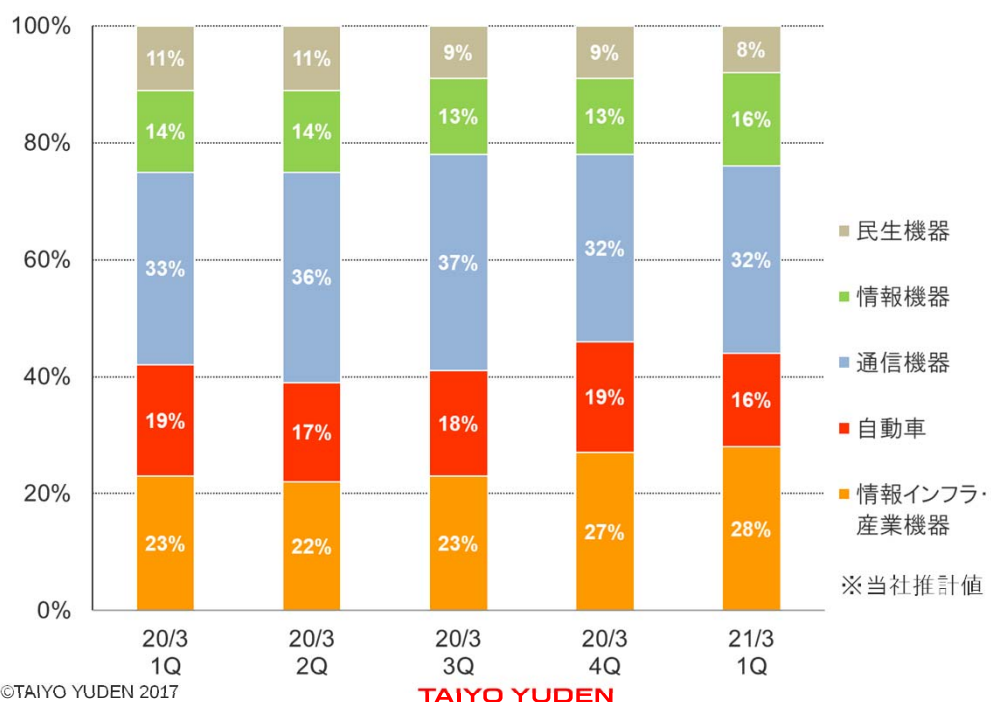
通信機器向けが増加した一方で、民生機器向け、情報機器向け、自動車向け、情報インフラ・産業機器向けが減少。

複合デバイスの売上高は、前四半期比19%減の91億円。

スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールが減少。

なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、65-70%。

用途分野別売上構成



8

情報機器向けの売上構成比は、前四半期から3ポイント上昇し16%。
リモートワークやオンライン学習の普及により、ノートPCやタブレット端末などの
需要が拡大した。

自動車向けは、世界的な需要減退の影響を受け、
前四半期より3ポイント減少し16%。

情報インフラ・産業機器向けは28%、通信機器向けは32%、
民生機器向けは8%で、構成比は前四半期からほぼ変化なし。

2021年3月期 連結業績予想

2021年3月期 業績予想の前提

■ 主要機器の動向

• 生産台数予想

	2021年3月期 前期比増減
PC・タブレット端末	△5%
スマートフォン	△12%
自動車	△25%

- スマートフォン向けの電子部品は、第2～第3四半期に季節的な需要期を迎える。自動車向けも第2四半期以降は需要回復へ。

■ 新型コロナウイルス感染症への対応

- with コロナ時代において、感染拡大防止策を実行した上で事業活動を継続。
- 供給リスクを考慮し、通常の在庫設計より高い水準で在庫を保有することで、不測の事態に対応できる体制を構築。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

10

業績予想の前提として、主要機器の生産台数はPC・タブレット端末が前期比5%減、スマートフォンが12%減、自動車は25%減と予想。リモートワークやオンライン学習の普及により、PCやタブレット端末の落ち込みは小さい。

スマートフォン向けの電子部品は、第2～第3四半期に季節的な需要期を迎える。自動車向けの需要も、第2四半期以降は回復へ向かうと想定。

5月までは、新型コロナウイルス感染症の影響によって一部の生産拠点で稼働が制限されたが、今後は国内外全ての生産拠点で通常稼働が続く前提。感染拡大防止策を実施し、従業員の安全に配慮しつつ、事業活動を継続する。不測の事態への備えとして、通常の在庫設計よりも多くの在庫を保有する方針。

2021年3月期 連結業績予想

百万円	2020年3月期		2021年3月期 予想			増減	
			上期				
売上高	282,329	100.0%	130,000	265,000	100.0%	△17,329	△6.1%
営業利益	37,176	13.2%	15,000	27,000	10.2%	△10,176	△27.4%
経常利益	35,165	12.5%	14,000	26,000	9.8%	△9,165	△26.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	18,022	6.4%	8,500	17,000	6.4%	△1,022	△5.7%
対米ドル期中平均レート	109.06円		※第2四半期以降 107.00円			—	
研究開発費	12,921		13,000			79	0.6%
設備投資額	39,365		50,000			10,635	27.0%
減価償却費	27,022		30,000			2,978	11.0%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

11

2021年3月期の業績予想は、売上高2,650億円、営業利益は270億円、経常利益は260億円、親会社株主に帰属する当期純利益は170億円。

第2四半期以降の為替前提は、1米ドル107円。

研究開発費の予想は前期並みの130億円。

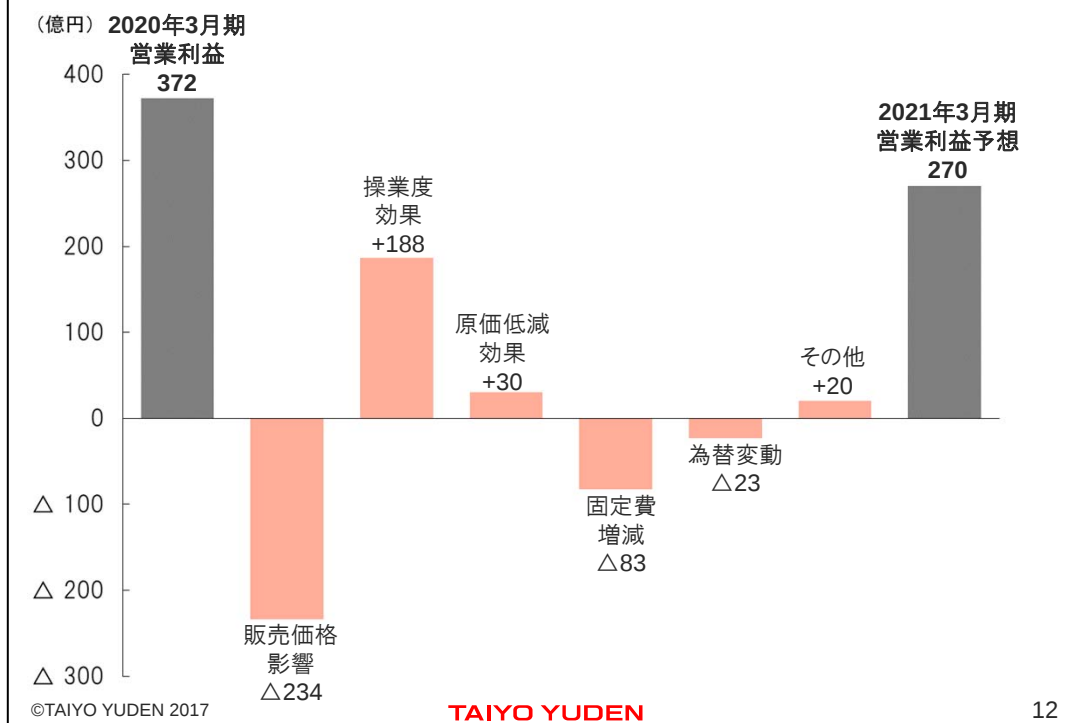
設備投資額は前期比106億円増の500億円。

子会社の新潟太陽誘電における新工場棟建設や中期的な需要拡大に備えた増産など、コンデンサ事業に関わる投資が中心。

コンデンサは、設備投資と生産性改善によって年間10-15%の能力増強を計画。

減価償却費は前期比30億円増の300億円。

2021年3月期 営業利益予想増減要因



今期の増益要因として、操業度効果が188億円。
販売数量の増加に加え、供給リスク対策として3月末に向けて棚卸資産を
実態ベースで100億円程度積み上げる計画。

このほか、原価低減効果30億円とその他20億円が増益要因。
その他は、第1四半期で新型コロナウイルス感染症の関連費用12億円を
特別損失に計上したが、第2四半期にさらに8億円発生する見込み。

減益要因は、販売価格影響234億円、固定費の増加83億円、
為替変動による影響23億円。

その結果、営業利益は前期に対して102億円減少し、270億円となる見込み。

2021年3月期 製品別売上高予想

百万円	2020年3月期		2021年3月期 予想			増減	
			上期				
コンデンサ	176,457	62.5%	87,500	179,000	67.5%	2,543	1.4%
フェライト及び応用製品	38,770	13.7%	17,500	36,500	13.8%	△2,270	△5.9%
複合デバイス	49,808	17.6%	18,000	35,500	13.4%	△14,308	△28.7%
その他	17,292	6.1%	7,000	14,000	5.3%	△3,292	△19.0%
合計	282,329	100.0%	130,000	265,000	100.0%	△17,329	△6.1%

コンデンサの売上予想は、前期比微増の1,790億円。

第1四半期は、3月までの前倒し発注の反動で受注が低水準だったが、7月の受注は回復の動きを見せており、第2・第3四半期の売上拡大を見込んでいる。

フェライト及び応用製品の売上は、前期比6%減の365億円。

複合デバイスは前期比29%減の355億円を予想。

なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、60%前後となる見込み。

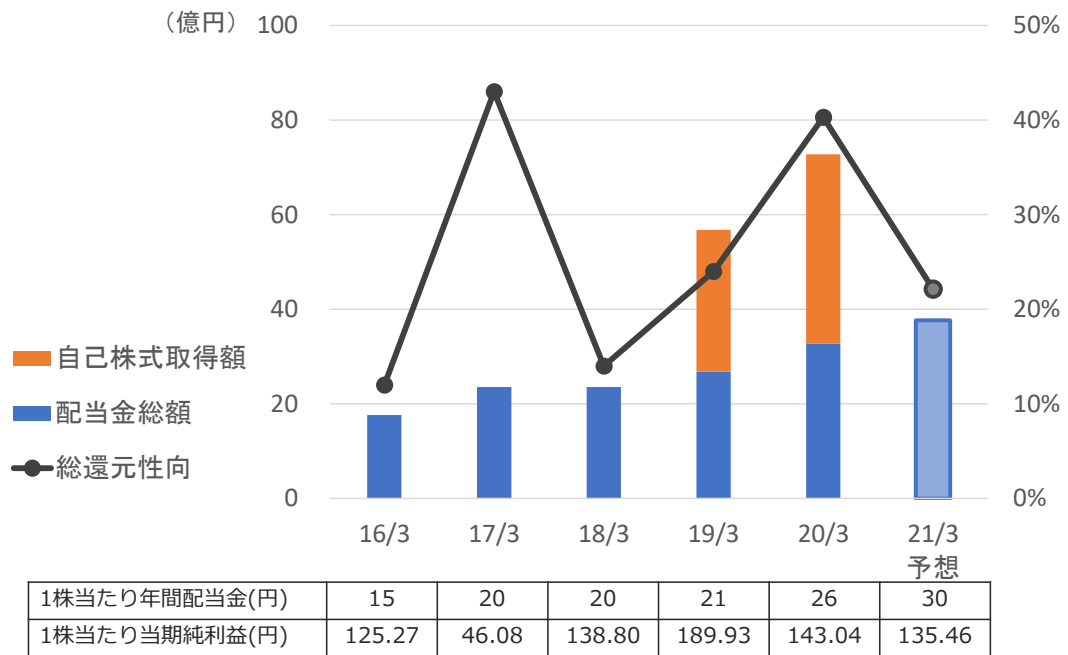
第2四半期の売上は、第1四半期に対してコンデンサが18%増、

フェライト及び応用製品が22%増と想定している。

複合デバイスについては、第1四半期とほぼ同水準の売上を予想。

9月末の棚卸資産は、実態ベースで20億円程度積み上げる計画。

株主還元



安定的な総還元性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

14

期初に発表したとおり、今期の年間配当は前期に対して4円増配の30円を予定。今後も、総還元性向30%を安定的に実現することを目標に株主の皆様へ利益を還元していきたい。

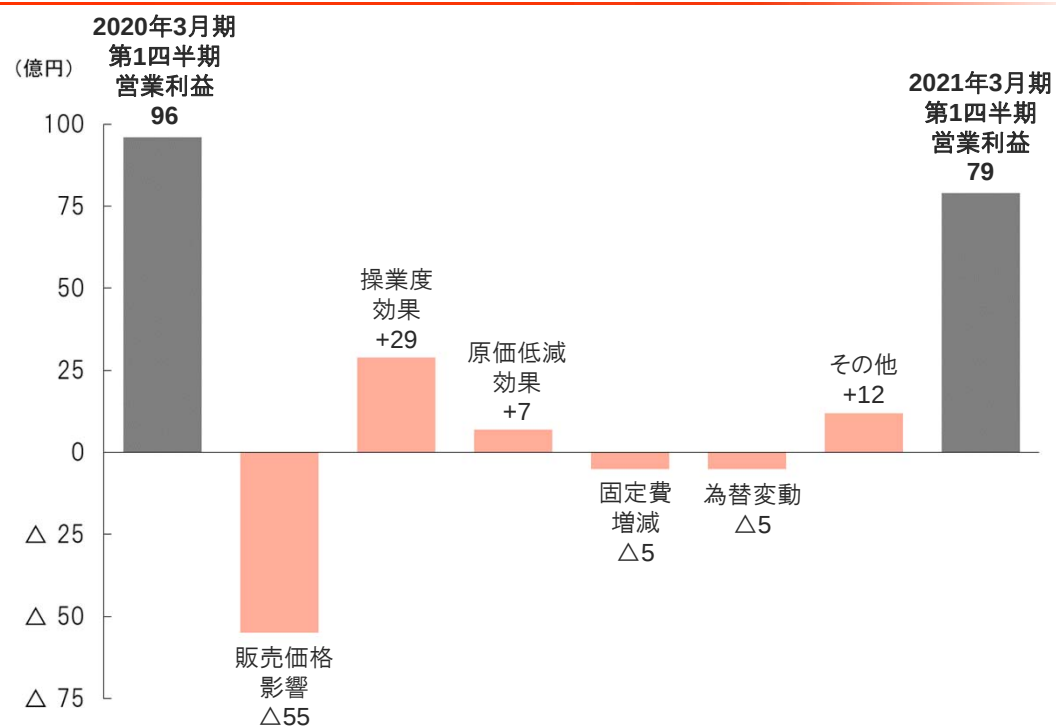
今期は、新型コロナウイルス感染症や自動車市場の低迷などで電子部品の需要が一時的に停滞するが、中期的には5Gの普及や自動車の電装化などによる需要拡大が続くという見方に変化はない。こうした需要に対応するため、最先端商品、高信頼性商品の生産・販売拡大に注力していく。

補足資料

連結業績概要(前年同期比)

百万円	2020年3月期 第1四半期		2021年3月期 第1四半期		増減	
売上高	68,635	100.0%	60,493	100.0%	△8,142	△11.9%
営業利益	9,595	14.0%	7,923	13.1%	△1,672	△17.4%
経常利益	8,846	12.9%	7,371	12.2%	△1,474	△16.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	7,151	10.4%	4,541	7.5%	△2,609	△36.5%
対米ドル期中平均レート	110.95円		107.61円		3.34円円高	
為替変動による影響額	売上高△16億円、営業利益△5億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,160		2,988		△171	△5.4%
設備投資額	8,605		17,886		9,280	107.8%
減価償却費	6,338		6,599		261	4.1%

営業利益増減要因(前年同期比)

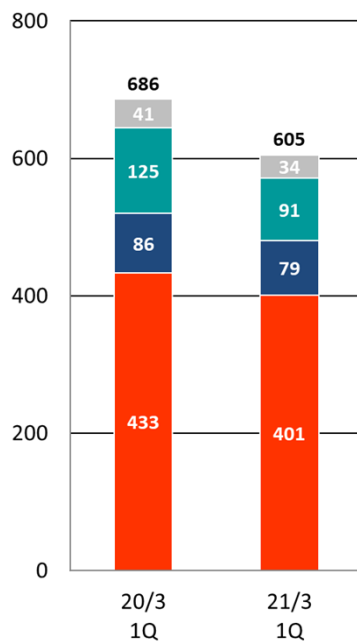


製品別売上高(前年同期比)

百万円	2020年3月期 第1四半期		2021年3月期 第1四半期		増減	
コンデンサ	43,338	63.1%	40,075	66.2%	△3,263	△7.5%
フェライト及び応用製品	8,633	12.6%	7,928	13.1%	△705	△8.2%
複合デバイス	12,523	18.2%	9,075	15.0%	△3,448	△27.5%
その他	4,139	6.0%	3,413	5.6%	△725	△17.5%
合計	68,635	100.0%	60,493	100.0%	△8,142	△11.9%

製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ コンデンサ (前年同期比△7.5%)

情報インフラ・産業機器向けが増加したが、民生機器向けや自動車向けなどが減少。

■ フェライト及び応用製品 (前年同期比△8.2%)

通信機器向けが増加したものの、民生機器向けや自動車向けなどが減少。

■ 複合デバイス (前年同期比△27.5%)

スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)、各種モジュールが減少。

■ コンデンサ ■ フェライト及び応用製品 ■ 複合デバイス ■ その他

連結業績推移(四半期)

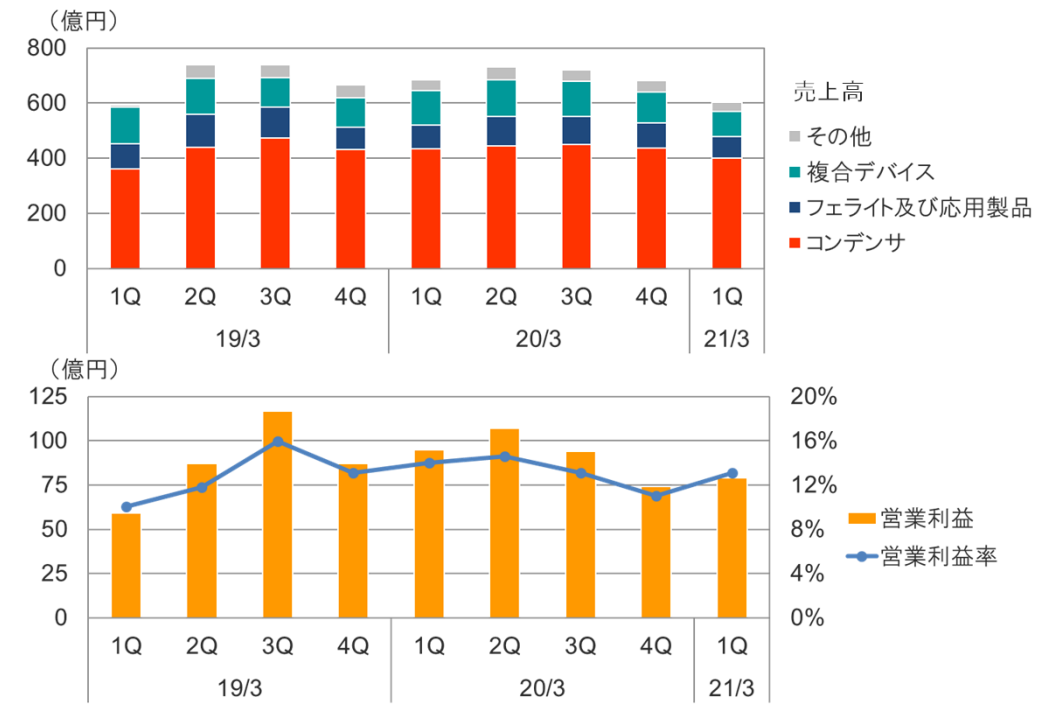
百万円	2019年3月期				2020年3月期				2021年 3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	59,576	73,989	73,963	66,820	68,635	73,272	72,187	68,233	60,493
コンデンサ	36,184	43,984	47,362	43,101	43,338	44,473	44,907	43,738	40,075
フェライト 及び応用製品	9,228	11,926	11,209	8,231	8,633	10,742	10,303	9,090	7,928
複合デバイス	13,208	13,160	10,783	10,778	12,523	13,436	12,621	11,226	9,075
その他	954	4,918	4,607	4,708	4,139	4,620	4,354	4,178	3,413
営業利益	5,981	8,722	11,789	8,744	9,595	10,703	9,446	7,431	7,923
経常利益	6,896	8,489	11,403	7,562	8,846	10,330	9,152	6,835	7,371
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,645	5,334	9,069	3,638	7,151	8,180	4,666	△1,975	4,541
対米ドル 期中平均レート	107.76円	110.84円	112.71円	110.64円	110.95円	107.58円	108.17円	109.54円	107.61円

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

20

連結業績推移(四半期)

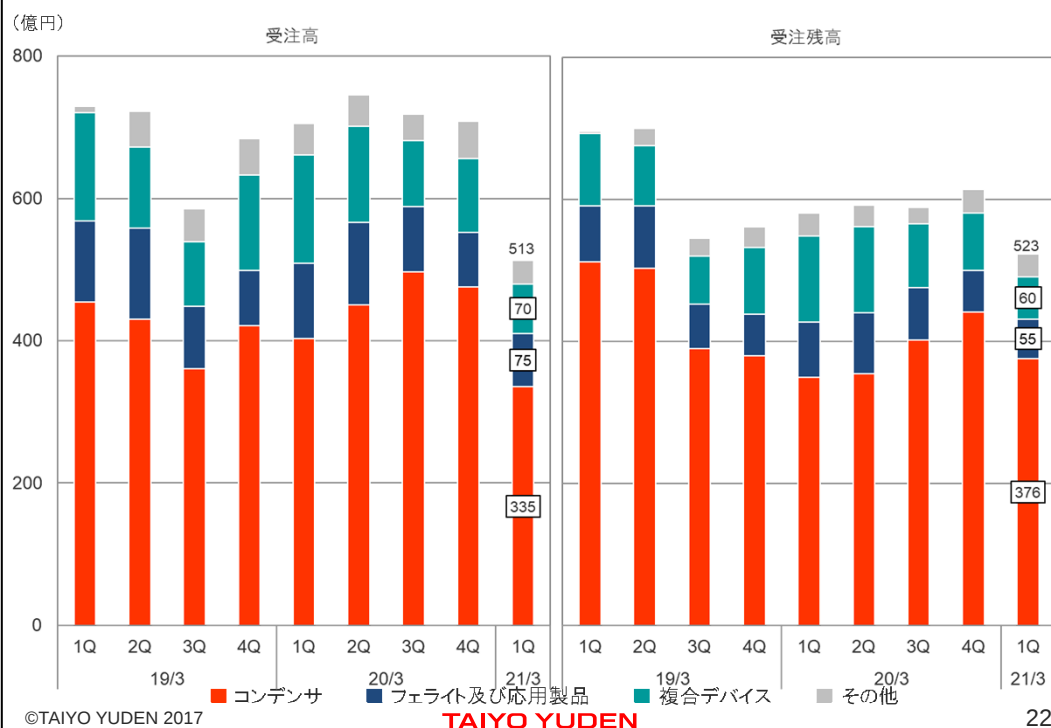


©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

21

受注高・受注残高推移(四半期)



TAIYO YUDEN

当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN